

8月



(http://photohito.com/photo/3200463/ より引用)



## あの日のあの川 リレー日記 ～第39話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第39話主人公 芦沢龍太郎

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：静岡県安倍川)

### 「川とともに生きる」

いつのこと？： 幼少期～現在

どこの川？： 安倍川

この記事の寄稿を依頼されたとき、一番初めに頭に浮かんだのが故郷静岡県の安倍川だった。私は大学生になって静岡県を離れるまでの18年間安倍川のほとりに住んでいたため、安倍川はまさに生活の一部だった。そこで安倍川にまつわる自分の体験に関して、曖昧な記憶を頼りに時系列順に記してみたいと思う。



安倍川橋

幼少期は休日になれば祖父母と安倍川の河川敷に散歩に行っていた覚えがある。特に目的があったわけではなかったと思うが、河川敷で練習している地元の少年野球チームを横目に土手を歩いていたことを覚えている。静岡県の川沿いに家があるという前情報のみで想像がついてしまうかもしれないが、私の実家はかなりの田舎にある。この年になれば実家から数十分車を走らせて近くのショッピングモールや娯楽施設に行くのは簡単だが、当時の自分にとって実家の周りには遊ぶ場所など存在せず、大人を引き連れて川に行くしかなかったのである。余談では

あるが、実家から市街地に出るには安倍川橋という橋（前頁の写真参照）を通る必要があったため、当時の私の脳内では「安倍川を渡る＝楽しいところにお出かけをする」という構図が成立していたのを鮮明に覚えている。そして帰省時車で安倍川橋を通るたびにそのことを思い出すのである。

小学生の私にとっては、安倍川は忌むべき場所であった。毎年安倍川の河川敷で小学校の持久走大会が行われていたためである。当時から運動があまり得意でなかった私は、持久走大会の日が近づくたび「安倍川が氾濫して持久走大会が中止にならないかなあ…」と思っていたのを覚えている。幼少期の話とはいえ、現在河川氾濫発生時の住民の避難に関して卒業論文を書いている人間が決して抱いてはならない思考である。



安倍川花火大会の様子

([http://www.city.shizuoka.jp/000\\_007547.html](http://www.city.shizuoka.jp/000_007547.html) より引用)

中学生以降は部活や勉強で忙しくなったこともあり、川と触れ合う機会は目に見えて減っていった。休日に友人と遊ぶときはもっぱら家の中でゲームであり、もはや川で遊ぶことなどなかった。しかし年に一度、自分を含め静岡県内の老若男女が安倍川周辺に集まるイベントがあった。安倍川花火大会である。時には家族と、時には部活の友人と、そして時には当時付き合っていた人と、相手は違えど毎年毎年飽きもせず花火大会に行っていた。思い返せば、成長してから目的をもって安倍川に行くのは、年に一度、この安倍川花火大会の時だけだったかもしれない。自分と安倍川とのつながりがずっと途切れなかったのも、このイベントのおかげだと言えるだろう。ちなみに 2018 年の安倍川花火大会は 7 月 28 日に開催予定だったが、台風 12 号の接近により中止になってしまった。来年以降は無事に開催されることを切に願っている。

大学生になって静岡県を離れている現在の私にとっては、安倍川は故郷のランドマーク的な存在になっている。富士山を見て静岡県に帰ってきたことを実感し、安倍川を見て実家に帰ってきたことを感じるのである。私は大学を卒業した後静岡県に帰る予定であるため、今後も何かしらの形で安倍川とはかかわっていくことになるだろう。就職し、結婚し、子供ができ…そのたびに安倍川が自分にとってどのような存在に変容していくのが今からとても楽しみである。



安倍川と安倍川橋と富士山

(<https://yosihisa.exblog.jp/13876099/> より引用)

(次号は 10 月号にて芝越さんにバトンを託します)